

横書き書字指導に関する研究

—— 指導の実態と課題 ——

齋木久美*・来栖愛美**

(2015年9月15日受理)

Education and study for learning left horizontal writing

Kumi SAIKI and Manami KURUSU

キーワード: 横書き, 左横書き, 書写指導, 横書き教材

文字を縦書きしていた日本に横書きが登場し、縦書きと横書きが併用されるようになるが、公用文で左横書きが求められるようになったことで、横書きが普及し定着することになる。小中学校の書写学習では、学習したことを日常の書字活動に生かすことが求められており、実社会で主流である横書きについてその書字指導を充実させることが望ましい。

そこで、横書きが登場する経緯や教科書における横書き教材の分量の推移を調査したところ、少しずつではあるが小学校の書写教科書における横書き教材が増えていることがわかった。しかし、このような状況があるのにも関わらず、大学生を対象にした平成8年と26年の調査から、横書きの指導がほとんどなされていないことが明らかになった。

本研究では、横書き書字指導の現状を報告し、横書きの指導の課題を整理する。

1. はじめに

現行の学習指導要領¹⁾の書写に関する内容には、「縦書き」「横書き」といった書字方向に関する記述はないが、小中学校の書写学習を日常の書字活動に生かすことを求めており、実社会では横書きが主流であるから、横書きの書字指導も含めたものである。

現行学習指導要領の書写に関する内容には、第3学年及び第4学年に「配列に注意して」や第5学年及び第6学年に「用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決める」、「目的に応じて」とあり、配列や用紙全体については、縦書き横書き両方の指導事項である。

指導に際しては、現在の左横書きが主流になった背景や小学校の書写教科書における横書き教材についてふまえておくことが望ましい。そこで、横書きが主流となった背景や横書き教材につい

*茨城大学教育学部 **つくば立沼崎小学校

て次項で述べる。

2. 日本の書字における横書きについて

屋名池²⁾は、横書きの条件として、「二行以上であり、かつ行変わりの部分が意味の切れ目でないもの」と定義している。そして古代の日本に、「横書き」と見て取れるものがなかったわけではなく、創案者以外に用いられることなく、個人の珍奇な試みとなっているものが主であることから、「横書き」が一般的に世間に広まったのは、西洋文化の影響を受けた近代以降のことであると述べている。

そして「横文字が横書きであることは、一目見ればわかる」が、その方向について手がかりがなければ、「日本語の一行一字の縦書きを日頃見慣れてきた人たちにとって、右から左へ文字を並べてゆくことは当然の選択だった」として、最初は、「右横書き」であったという。

「右横書き」から「左横書き」の確立に大きく関わるのが「綴じ」であり、「書字方向は本の仕立て方と密接な関係」があったのである。「左へ行移りする縦書き」は「右綴じが最も無理がな」いが、「縦書きと左横書きが一冊の内に共存する場合は」、「縦書きの日本語が主体なら、右綴じにし、横書きの欧語は横転させて収めるのが自然」であり、この実例も多いという。この「綴じ」の問題を解決する方法として登場したのが「左横書き」で、「横書きされる外国語と共存するために、日本語を外国語の書字方向に合わせ、現在の『左横書き』形が生み出された」のである²⁾。

このように文化面から日本に浸透してきた左横書きが、後の現代社会で定着する背景には、公文における公式な書字方向となったことが要因であると武部³⁾は指摘する。「官庁用語便覧」として編集された『公用文の手引き』（昭21・12・24 内閣通達）では、「文字は、漢字とひらがなを交えて用い、たてがきを本体とする、場合によっては、全文を左横書きとする」と書かれ、この時点では、公文は縦書きが本体で、場合によって全文を横書きにするという程度だったが、「執務能率の増進により、公文の改善」（昭24・4・5）で、書類の書き方について、「一定の猶予期間を定め、なるべく広い範囲にわたって左横書きとする。」となったことで公文の左横書きが、積極的に進められることになったのである³⁾。

さらに武部³⁾は、国語審議会の建議「公用文の左横書きについて」の別冊「公文書の横書きについて」から、右手で書く場合の左横書きの利点を、「書きやすい。書いた後をこすらない。数式・ローマ字の書き方と一致する。綴りこみやすい。」など九項目にまとめ、この理由が横書きを積極的に推進することになったと述べている。

以上のことから、公文における左横書き推進が現在の左横書きの定着につながるのである。

3. 書写教科書における横書き教材

(1) 書写教科書における初期の横書き教材

実社会における横書き普及が、教育の現場にはどのように反映されていったのであろうか。教科

書に掲載された教材全てが授業で取り上げられるわけではないが、指導の上では指標となるものである。そこで、教科書資料⁴⁾に掲載された教材をもとに、日本で公用文の改革が始まった昭和24年から昭和46年までの横書き教材を抽出したものが資料1である。昭和26年発行のものから横書きの教材が扱われるようになっていく。教科書に横書き教材が取り上げられるようになったのは、公文書での横書き採用の流れが教育現場にも反映されたものといえるが、縦書き教材に比べて横書き教材が少ない。

横書きの教材では、数字やローマ字の書き方に関するものを扱っている。特に当時の第4学年の学習内容となっていたローマ字については、筆順や名前の書き方など基本的な事項を横書きで示している。また、町の看板や作品の題名、図書カード、ポスターなどを掲載し、実生活で見られるものが教材として提示されている。ただし多くは、教材を提示するのみで、横書きで書く際の注意点を示すもの（昭和46年の『あたらしいかきかた』東京書籍 五年生）は少ないようである。

(2) 平成4年以降発行の小学校書写教科書における横書き教材の割合

公用文が横書きされることによって、その後の書写教科書に横書き教材が取り上げられるようになるが、小学校書写教科書における横書き教材の分量は、どのくらいなのであろうか。

平成4年に横書きの指導に着目した研究を行っている広川⁵⁾は「新学習指導要領になって、平成4年度に小学校・平成5年度に中学校の教科書が改訂になったが、教科書には横書き指導用の教材がどのくらい載せられているのだろうか。」と平成4年発行の小学校書写教科書三社（光村図書、教育出版、東京書籍）の横書き教材についてページ数と硬筆教材に占める割合を算出している（資料2上段：横書き教材のページ数、中段：硬筆教材の全ページ数、下段：横書き教材の割合（％））。この結果から、横書き教材の少なさを指摘し、「低学年では、ほとんど0に近く、中学年で数%、高学年でも一割には満たない。」「教材自体がこれだけ少ないことに加え、教科書の指導書にある指導内容も、かなり貧弱である。」と述べている。

広川⁵⁾の調査を参考に、平成8年度以降の小学校書写教科書⁶⁾における横書き教材の分量を調査したものが、資料3である。さらに、資料2・3における、硬筆教材における横書き教材の割合を、学年ごとに推移を表すグラフにしたものが資料4である。

広川⁵⁾が指摘するように、平成8年以降の教科書でも低学年の横書き教材の分量は少ないが、全体に占める割合は少しずつ増えてきている。中学年、高学年については、教科書会社や学年によって差はあるが、低学年に比べて増える傾向にあり、また第6学年の三社の割合を平均してみると、平成4年度は9.9%だったのに対し、平成23年度では21.8%（小数点第一位以下省略）と、10%以上増加している。横書き教材数の増加を見れば、横書き指導の充実を目指していることがうかがえる。

(3) 現行書写教科書の横書き書字教材の内容

教科書会社によって横書き教材の扱いは異なるが、横書き教材について、平成27年発行の光村図書、教育出版、東京書籍の三社の書写教科書をもとに、低学年、中学年、高学年ごとの指導内容を確認する。

① 低学年（第1学年及び第2学年）

第1学年の教科書では、三社とも、横書きは「ひだりからみぎにかく」という書字方向を提示している。同じ紙面に、マスに書いた数字に書き順を示している。

特に光村図書では、行の中心と文字の中心をそろえて書いた絵日記を教材にし、「かきはじめは、いちじ空ける。」「せんからはみ出さないようにかく。」「小さい字や「, (,)」や「。」はまん中よりも下にかく」と明記している。また行の中心と文字の中心がそろっていることに気づくよう、後半の1行にのみ、行の中央に赤い点線で中心線が引かれている。書き始めを1字空けることや、罫線をはみ出さないように書く、行と文字の中心をそろえるといったことは、縦書きでも同様であるが、横書きの場合でも中心に気をつける必要があることや句読点の位置を留意点として示している。

三社に共通するのは、書字方向や数字の書き方などの基本的な事項と横書きの掲示物、絵日記など実用的なものを教材としていることである。

第2学年の教科書については、光村図書では、横書きの手紙の例を提示し、第1学年と同様の指示をしている。教育出版では、横書きの観察カードや手紙を示し、「まず目がないときは、下のせんにそろえて書こう。」の留意点を付記している。東京書籍では、横書きのマスのノート教材を示し、「横書きのときは、「, (コンマ)」は「,」で書くこともあるよ。」を付記し、横書きの表記について触れている。また、「ありがとうをとどけよう」と題する紙面に、「読みやすく、ていねいに書くこと」とした縦書きの手紙教材があり、その参考例として、横書き教材の「かんしゃじょう」を小さく掲載している。

低学年の教科書での横書き教材の分量が少ないとはいえ、与えられた行に対する横書きの書き方について、光村図書では行と文字の中心をそろえる書き方、教育出版では文字を下にそろえる書き方を提示している。東京書籍では特に提示していないが、その際、相手に伝わるよう読みやすく書くことに気づかせるような紙面になっている。

② 中学年（第3学年及び第4学年）

単元での扱いは異なるが、第3学年の教科書では三社とも横書きの書き方には2通りあることを提示している。具体的には観察日記や掲示物の例で、配列に気をつけることを指導内容としている。

光村図書と東京書籍では、ローマ字を掲載しており、特に、光村図書では、大文字と小文字を書く際の高さの違いに触れている。

第4学年では、ノートや見学メモといった、学校生活での文字を書く活動をふまえた教材を用いて、読みやすく書くために、文字の大きさや、字間、配列などに留意させようという内容になっている。特に教育出版では、「ふり返ろう」で「配列に気をつけて読みやすく書いたかな」として自己評価を求めている。

中学年の教科書では、漢字とかなの大きさや配列に重点を置いた教材が多くみられる。身近にある教材をもとに、見る相手にとって読みやすいよう意識して書くように、と促している。教材を視写するというのではなく、学校生活で横書きをする時のモデルを提示するという形式になっている。

③ 高学年（第5学年及び第6学年）

学習指導要領でも示されているように、文字を書く活動が多くなる高学年は、書写学習を日常の

書字活動に生かすことがいっそう求められている。高学年の教科書では、三社とも、横書き教材の紙面が設けられ、目的や用紙に合わせて読みやすく書くことが重視されている。

第5学年の教科書では三社とも、紙面構成を考えて読みやすく書く横書き教材が掲載されている。筆記具を選択することや、見出しの書き方、矢印や囲みを用いるなどして、情報をわかりやすく伝えるため、読み手を意識して書くことの大切さを示す内容になっている。

「すばやく書き留めるために」として光村図書では、インタビューの要点を横書きで書き留めた例を載せ、「筆圧を弱めると、速く書ける。」として終筆を軽くしたものや許容の字形で提示している。「単語だけ書き留める」、「かじょう書きにする」といった注意点は、縦書きでも共通であるが、横書きで提示したのは、横書きでメモをとることが多いと想定したものと思われる。同様に、「目的に合わせて書く」で教育出版も、許容の書き方の例や「筆圧を軽くして書く」などの留意点を示し、横書きのメモの取り方の教材を掲示している。

なお毛筆学習でも取り上げている紙面の余白については、縦書きの場合だけでなく、横書き教材でも触れ、配列を意識して「読みやすく書こう」を目指している。

第6学年では、三社とも、調べ学習の発表資料や行事や体験学習に関わる資料といった学校生活での具体的な場面でのメモや掲示物を書くことを想定して、横書きで整えて書く際の留意点を考えさせるという内容になっている。

教育出版では、読み手によく伝わる発表資料を書くために、「話し合ってみよう」として、グループで一つの掲示物を横書きで作成する場合の留意点を考えさせている。

東京書籍では、横書きの例を提示しているが、書く方向も選択することを求めている。光村図書では、資料に、縦書きと横書きの両方の手紙の書き方を提示している。

現行書写教科書の横書き教材は、学習指導要領をふまえ発達段階に合わせた具体的なものが多く取り上げられており、低学年では横書きで丁寧を書くこと、中学年では漢字と仮名の文字の大きさや配列に注意した書き方、高学年では目的や用紙に合わせた書き方を学習するものになっている。学校生活でも横書きで書くことが多いことから、掲示物や発表資料を教材として取り上げ、書常の書字活動に生かす取り組みをうながすものとなっている。

4. 横書き書字指導に関する実情

横書きの教材の分量や内容を概観する限りでは、横書き教材が質、量ともに充実してきているが、横書きの指導は、どうであろうか。広川⁵⁾は、平成8年に横書き書字の指導の実態を把握するために、長野県内の小中高大生千名を対象に横書きに関する調査を実施している。縦書き、横書きのどちらが書きやすいかの調査から、「横書きの習慣は、小学校中学年で既に始まっており、中学校時代に急激に浸透し、高校の段階では完全に定着しているといえることができる。」と報告している。

そして、学校教育での横書き書字指導が必要であるとして、信州大学教育学部の学生65名に対して、「今までに学校で横書きの指導を受けたことがありますか」という質問の調査を行ない、「ある」と答えたのは、わずかに6.2%であり、「ある」と答えた人に、指導を受けた内容について尋ねてみ

ると、「小学校の習字の時間に、ただ手本を見て書いてだけ」と答えた人がほとんどであったと述べ、「指導らしい指導は、ほとんど行われていないと考えてよさそうである」と述べている。

そこで平成26年4月に茨城大学の学生を対象に同様の調査を行った。対象学生は、中学校国語免許取得対応の「書道」受講者60名である。「横書きの指導を受けたことはありますか。」の質問には、あるが5名(8.3%)、ないが22名(35.7%)、覚えていないが33名(55%)であった。広川⁵⁾の調査結果と大差ないものであり、横書きに関する指導があまりされていないという結果になった。

「ある」の指導の内容は、「文字の大きさや行を通してのバランスについて。」「手紙を書く授業で線にそって書き、文字の大きさを均等にそろえるように言われた。」「中2の国語で横書きのペン字の課題が出された。」「小・中学校の書写のときに指導された。」「研究発表会でポスターを書くときにアドバイスされた。」「表作成のときに指導された。」というものであった。

また、「横書きをするときに意識していることがあれば具体的に書いてください。」の質問には、33名が、まっすぐ横に書けるようにする、下をそろえるようにすると回答している。「文字の大きさをそろえること」についても7名、文頭、文字の位置をそろえるが9名あり、横をそろえて書くことに配慮しているものが49名、8割以上の回答数であった。

さらに「小・中学校ではどのような横書きの指導があればいいと思いますか?」と聞いたところ、回答は様々であったが、まっすぐに書く、行間、字間、文字の大きさなど、横書きで書いたものをきれいに見せるための方法、といったものがあつた。また、ノートの取り方、原稿用紙の書き方、履歴書の書き方など、実用的なものの書き方の指導を求めるものもあつた。

次に同年10月に、小学校書写科目を受講する茨城大学1年生109名を対象に、「小学校や中学校での横書きの指導を受けたことがあるか。」について調査したところ、あると答えたのが8名(小学校が2名、覚えていないが6名)で全体の約7%、覚えていない82名と指導がなかった19名を合わせると、9割強の大学生が横書きに関する指導を受けてないと回答している。

指導があつたとする8名にその内容を聞いたところ、「横書きは左から書く。」「手紙の書き方、ローマ字の書き方」、「特に細かな指導はなく、横書きの練習をした。」というものであつた。

平成8年の広川⁵⁾の調査と本稿における平成26年の調査から、小学校書写教科書の横書き教材は増えていても、小学校での横書き指導は十分でないということが明らかになった。

5. 横書き書字指導における課題

書写学習を日常の書字活動に生かすことが求められていること、そして実社会においては横書きが主流であることをふまえるならば、横書きの指導を充実させる必要がある。教科書における横書き教材が増えているにも関わらず、横書きの指導が充実しないのはなぜであろうか。

理由の一つには、書写の学習時間が十分に確保されていないことがあるだろう。さらに学校生活における様々な書字活動に、書写学習を生かすといった取り組みや意識が希薄であることがあげられるだろう。

次に、検討しなければならないのは、文字の横の中心と、従来縦書きに適した文字を横書きすることによって、生じる字形の変容についてである。

教科書の横書き教材を概観したが、例えば、指導事項に「文字の中心を罫線の中心に合わせて書く」ことが挙げられていても、文字の横の中心を意識させたり、書き確かめさせたりする指導が行われてきているとは言い難い。広川⁵⁾が、「各文字の中心のつかみ方を指導せずに、『文字の中心を罫の中心に合わせて書け』と言っても指導したことにはならないのである。」と、指摘しているが、平成8年以降の書写教科書でも、横書きの際の文字の横の中心について、どのように意識すればよいのかについては、具体的ではないのが現状である。

次に縦書きに適した文字を横書きすることによって生じる字形の変容についてである。広川⁵⁾は、横書きが児童生徒に定着しているとはいえ、「縦書きに適しているものを無理に横書きしていることに変わりはない」として、実態調査により、明らかになった字形等の問題点を次の6点にまとめている。

- (1)横書きをした場合、誰でも概形が正方形に近くなる傾向がある。
- (2)横書きが書きやすい人の方が、概形が正方形に近い傾向がある。
- (3)罫線を傾けて書くことにより、縦画が傾く傾向にある。
- (4)横書きにより、回転部分の退化が起こる。
- (5)字間の幅を統一しにくい。
- (6)文字の中心が把握しにくい、行が通しにくい。

(1)については、「横書きの場合は横に文字を連ねていくので、横に飛び出す部分を短く抑えないと、隣の文字にぶつかってしまう。それを避けるために、横幅の変化をなるべくなくそうとする意識が働き、概形が正方形に近づく傾向がある。」と説明する。そして「この傾向が高じていくと、「土」と「土」の区別がつきにくくなり」、いわゆる「丸文字」に近づき、「文字の乱れの原因になる。」と述べている。

(2)については、「横書きに慣れれば慣れるほど概形が正方形に近づき、問題傾向が強まる」と言う。「横線を引く場合、少し右上がりの方が書きやす」いが、「横書きの場合、横画は水平に書く方が行も通りやすいし、次の文字へもつなげやすい」ことから、「実際に書くときは少し右上がりに書いて、書き上がった文字の横画は罫線に平行になっている。」ようにするために、紙面を右肩上がりに傾けた状態で書くようになるというのである。

そしてこのように書くと(3)で指摘するように、縦画まで傾いてしまい、文字の左右相称といった造形がとりにくくなってしまっていると述べている。

(4)についてであるが、次の文字をすぐ右側に書くことになる横書きでは、縦書きの際の終筆の最下部まで行かずに次の文字に進む方がつなげやすいので、回転するような運筆がおろそかになるというのである。この場合の字形は、「丸文字」「マンガ文字」そのものであると指摘する。

(5)については、途中で長く書く横画がある文字の場合、最初の画の書きはじめに留意して書かないととなりの文字と接することになり、このことが、字間を統一しにくい要因であるとする。

(6)については、「横書きの行を揃えていくには、各文字の横の中心を把握しなければならないが、文字の横の中心はとらえにくい。そのため、曲がりやすい」と述べ、縦書きで文字の中心をそろえるより、横書きで横の中心をとらえることの難しさを指摘している。

本来縦書きであったものを横書きにすることで生じる問題については、小竹⁷⁾も、そもそも、横書きや横組書式への転換によって生じる「字形的損傷」について論及されることが少ないと指摘し

ている。そして、横書きによる手書き文字の「損傷や阻害」を検証することなく、現代の筆記を看過しており、このことが横書きによる字形の異なりについて論及することを希薄にしていると述べている。

手書きという動きによって、文字の形も変化してきた歴史的背景をふまえるならば、本来縦書きに適したものを横書きにする際、横に書字方向を変えるだけで対応できるというものではないことになる。小竹⁷⁾が指摘するように、横書きによる手書き文字の「損傷」を見極めずにいるのであれば、教科書の横書き教材が、縦書きで整えた字形を横組みに配列したものとなっている、ということになる。このことが、教科書の横書き教材で提示される学習内容が、配列に関するものを中心にせざるを得ないということとも関連していると言える。

一方、教科書の書字教材は、整った字形の提示も求められていることから、横書き教材であっても、縦書きに適した字形を横に配列したものとならざるを得ないことになる。低学年のうちには、ある程度時間をかけて書くことができるので、問題にはならないかもしれないが、高学年になれば、日常の書字活動に生かすために速さを意識する必要がある、書写教科書の横書き教材が視写を目的にしていないとしても、実際には、縦書きに適した字形を意識しながら、横に書き進めていくことを要求していることになり、日常に生かすという速さを意識すればするほど、無理が生ずることになる。このことが、横書き書字指導の充実を阻害する要因の一つであり、検討が必要である。

6. 横書き書字指導における今後の課題

横書き書字指導を充実させていく上で、いくつかの課題があるが、中学生を対象にした「横書き」の実践授業を行い、広川⁵⁾は、次のように述べている。

指導内容は、前述した「横書きをすることによって生ずる問題点」を理解させることから始めたい。理解といっても、単なる知識として与えるのではなく、感動や驚きなど心の動きを伴った深い理解をさせる必要がある。なぜなら、単なる知識として伝達しただけでは、それが日常の書字・観字活動に生きて働くとは考えにくいからである。「横書きは書きやすい」と考えている児童生徒に「横書きは結構難しく、注意して書いたり見たりしなくてはならない」と意識変革をもたらすような指導内容にしなくてはならない。

ここでは、手書きすることが本来多様な要素を含むことそのものを学習内容とし、学習者に考えさせるという提案がなされている。自ら考え、課題解決を目指す学習活動を促がす指導が求められている今日、書字の歴史的背景を教材とし、学習者自身に手書きについて、また書字方向について積極的に考えさせる取組みが必要なのである。広川の言うように、日頃何も意識せずに書いている横書きで、整えて書くことは実は難しいことを小学校高学年あたりから、気づかせるような働きかけが必要である。そのためにも、指導者自身が手で文字を書くことに関する知識や理解を深めることが欠かせない。

妹尾谷⁸⁾は、「学校教育における『縦書き・横書き』の使い分けの指導」の論考で、次のように言う。

日本の書字形体は極めて特殊なものと言える。それにも関わらず、現行の学習指導要領に

はその内容に関する事項が定められていない。特殊でわずらわしいものとして捉えるのではなく、その特性を活かした学習を促すべきではないだろうか。

なぜ日本には縦書きも横書きも存在しているのか、そのことに子どもたちが関心を持ち切りに使い分ける力を身につけるために、実際に様々な書き方を体験することが有効だろう。

また、指導者が書字の歴史を正確に理解していることが必要になる。

妹尾谷が言うように、横書きの問題をとらえるためには、縦書きとの使い分けの視点と合わせてとらえていくべきであり、そのためにも指導者が書字の歴史について理解を深めていかなければならないのである。

7. おわりに

実社会における横書きの定着をふまえるならば、書写学習で横書きの指導を充実させる必要がある。しかし、小学校書写教科書における横書き教材が増えていても、横書き指導あまりなされていない実態がある。その要因には、書写の授業時数の確保が難しいだけでなく、縦書きしてきた文字を横書きすることによって生じる字形の変容や、横書きで整えて書くことの難しさについて十分な検討がなされていない実情もある。

こういった課題を改善するためには、手書きすることそのものに多様な実態があることや、縦書き横書きを使い分けているという書字の歴史について、指導者が理解を深めていくことが欠かせない。

整った字形や配列の留意点のみを学習させるのではなく、文字を手書きしてきた文化的・歴史的背景も、発達に応じて学び深められるような書写学習を目指す必要がある。

引用文献

- 1) 文部科学省, 平成 20 年, 『小学校学習指導要領解説国語編』, 東洋館出版社.
- 2) 屋名池誠, 2003, 『横書き登場—日本語表記の近代—』, 岩波新書, P40, P42, P44.
- 3) 武部良明, 昭和 54 年, 『日本語の表記』, 角川書店, P426, P428.
- 4) 加藤達成監修, 昭和 59 年, 『書写・書道教育史資料 第二巻 教科書史』, 東京法令出版.
教科書全頁を掲載しているものではないが、当時の教材が概観できるようになっている。
- 5) 広川芳守, 1996, 「横書き書字指導の研究」, 『信大国語教育 5』, 信州大学国語教育学会, 11-21.
- 6) 次の平成 8 年・15 年・17 年・23 年・27 年発行の小学校書写教科書.
光村図書 『しょしゃ 一ねん』『しょしゃ二年』『書写三年』『書写四年』『書写五年』『書写六年』教育出版 『しょうがく しょしゃ 1』『小学 しょしゃ 2』『小学 書写 3』～『小学 書写 4』『小学 書写 5』『小学 書写 6』.
東京書籍「新編あたらしいしょしゃ一」「新編新しいしょしゃ二」「新編新しい書写三」「新編新しい書写四」「新編新しい書写五」「新編新しい書写六」.

- 7) 小竹光夫, 2001, 横書き書字における字形的損傷について, 書写書道教育研究, 18, 全国大学書写書道教育学会, 41-50.
- 8) 妹尾谷香, 2015, 学校教育における「縦書き・横書き」の使い分けの指導, 美術科研究 33, 大阪教育大学美術教育講座・芸術講座, 87-95.

資料1 昭和26～46年の小学校書写教科書にみる横書き教材の例

年	教科書名/出版社	学年	単元	内容
昭和26	「わたしの書き方」藤田民次編 東京書籍	一年上	せんをかきましよう。	(運筆練習)
		四年	おいおいの日をしらべました。	1月1日 元日 1月15日 成人の日
			数字を早くじょうずに書きましよう。	3 + 2 = 6 ÷ 3 =
昭和27	「かきかた」石橋啓十郎監修 学校図書	三年下	かがみ遊び	「二枚のかがみをむかいあわせて立て、そのあいだに、ろうそくの火をおきます。これを横からのぞくと、何十本ものろうそくが、ぎょうれつをしているように見えます。」
		六年	町でみる文字	「ラジオ商会」「ごまどり」「昭和書店」
昭和28	「小学しんかきかた」辻本史郎・今井凌雪 著 巖々堂	二年	お祝い日	1 1 元日 1 15 成人の日
		六年	新聞の役わりについてしらべました。	「新聞の役わり 1 ニュースをただしく報道します。 2 ニュースの意味を理解し、どう行動したらよいかについて説明し、世の中の意見をただしく指導します。 3 生活に必要な広告をのせます。 4 しゆ味・教養・ごらく・スポーツなどの記事をのせて、生活をたのしく、ゆたかにします。 5 天気予報やこよみをしらせましよう。」
昭和36	「かきかた」仲田幹一 著 大日本図書	四年	ローマ字	(なまえ)
昭和37	「かきかた」金田一京助・石黒修・鈴木三省 著 三省堂	四年	ローマ字	「Romazi Yoi ko Yoi kokoro Yoi kotoba」アルファベット筆順
		五年	図書カード(ワークシート形式)	本の題名 たから島 本を書いた人 スチーブンソン 発行所 山川書店 読み始め 37.12.16 読み終わり 37.12.18 感想 これは、南海の小さな島にかくされたたから物をめぐるジム少年と海ぞくとの戦いの物語である。次から次へとぼんげんが続いておもしろい。
		六年	卒業記念文集 とびら	(表紙)
昭和40	「小学校書写 毛筆」川淵勝男編・狩田巻山 著 高円書房	五年	・中期	「五年生 読書発表会 11月10日午後1時 図書室」
			・後期	「調査記録」「実験記録」
昭和46	「あたらしいかきかた」飯島春敬・松井如流 他 著 東京書籍	五年	会議を進める順序	「会議を進める順序 1, 議題を定める。2, 議題についての案を出す。3, 出された案について、賛成か反対の意見を言う。4, もっとよいと思う案があったら、それを出す。5, 採決する」※行の中心が曲がらないように書きましよう。※書き出しの位置に気をつけましよう。
		二年	フェルトペンなどをつかってかきましよう。	「おしぼな 2年 のむらよし子」「ありのかんさつ 西川よしお」
		五年	運動会	(ポスター)
		三年	よこ書きになれましよう。	「読書ノート 3年4組 大橋公平」 ※よこ書きのとき、下にせんがあれば、そのせんをもとにして、行がゆがまないように書きましよう。
		四年	ローマ字	※大文字・小文字の高さや書き順に気をつけましよう。

資料2・3 小学校書写教科書3社の横書き教材の割合

※上段…横書き教材のページ数
中段…硬筆教材の全ページ数
下段…横書き教材の割合(%)

資料2 広川論文から転載

	平成4年		
	光村 図書	教育 出版	東京 書籍
第1学年	0	0.8	0
	[30]	[30]	[30]
第2学年	0	2.7	0
	[30]	[30]	[30]
第3学年	0	0.5	0.3
	[14]	[14]	[14]
第4学年	1	1	1
	[15]	[15]	[13]
第5学年	0.8	1	1
	[11]	[13]	[11]
第6学年	0.3	1.5	1.7
	[10]	[12]	[12]
	3	12.5	14.2

資料3 広川論文をもとに作成

	平成8年			平成15年			平成17年			平成23年			平成27年		
	光村 図書	教育 出版	東京 書籍	光村 図書	教育 出版	東京 書籍	光村 図書	教育 出版	東京 書籍	光村 図書	教育 出版	東京 書籍	光村 図書	教育 出版	東京 書籍
第1学年	0	1	0	1	1	1.6	0.5	1	1.7	0.5	3.1	1.4	2	3.1	1.55
	[33]	[33]	[31]	[31]	[31]	[31]	[31]	[31]	[31]	[33]	[38]	[38]	[37]	[38]	[41]
第2学年	0	3	0	3.2	3.2	5.2	1.6	3.2	5.5	1.5	8.2	3.7	4.8	8.2	3.8
	[33]	[33]	[32]	[29]	[31]	[31]	[30]	[31]	[30]	[32]	[38]	[38.5]	[37]	[38]	[41]
第3学年	0	1.5	0	1	6.5	1.9	2.3	3.2	6	4.7	8.4	4.9	2.7	8.4	7.8
	[15.7]	[18.3]	[17.1]	[13.1]	[15.3]	[15.7]	[14]	[18.7]	[12]	[10.7]	[21.3]	[13.9]	[12]	[17]	[13.5]
第4学年	0	7.7	1.2	9.2	6.5	8.9	0.7	5.3	25	9.3	18.8	12.2	6.25	23.5	29.2
	[15]	[18.6]	[16.9]	[16.3]	[16.7]	[15.4]	[14]	[20.7]	[12]	[16]	[22.4]	[22.8]	[16]	[17]	[14.1]
第5学年	1.3	2.3	1	1.9	1	2.5	5	1.6	2.5	6.5	6.4	3.5	4	6.5	2.34
	[9.9]	[17.4]	[12.8]	[13.4]	[19.7]	[14.2]	[18]	[20.5]	[13]	[17.2]	[19.1]	[15.5]	[17]	[17]	[16.6]
第6学年	0.3	1.5	1	1	3.4	2.4	4	2.4	1.1	4.8	2	2.9	4.87	4.2	6
	[10.6]	[16.3]	[12.4]	[12.1]	[19.1]	[15.3]	[16]	[18.5]	[14]	[15.7]	[16.9]	[14.3]	[12]	[8.8]	[15.6]
	2.8	9.2	8.1	8.3	17.8	15.7	25	2.4	7.9	30.6	11.8	20.2	40.1	47.7	38.5

資料4 平成4～27年発行小学校書写教科書3社の横書き教材割合の推移

